

【調査報告】

小学校教育と博物館

——西宮市立郷土資料館の夏季事業から考える——

赤井孝史

はじめに

教育における学校と博物館の連携の必要性が注目されて久しい。いわゆる博学連携では、学芸員、研究員が学校教育の現場に向いて資料を使って授業を行うアウトリーチ型授業や¹⁾、教員が博物館の展示見学、資料（貸出を含め）を活用した授業を展開する事例が報告されている²⁾。

しかしながら、博学連携が盛んとは言い難く、その理由として学校側としては博物館までの交通費や見学料がかかること、授業時間の確保が難しいことなどが挙げられ、博物館側は専門職員たる学芸員の不足が挙げられる。小川義和は博学連携には①相互理解②つなぐシステム③理念の共有が必要と述べている。小川の述べる「相互理解」とは、教員が博物館の館蔵資料や展示内容、解説院の有無、見学時間や費用といった状況を理解し、博物館側は学校の望む内容や見学の單元における位置づけの理解を指し、「つなぐシステム」は、学校教育と博物館教育をつなぎコーディネートする人材を養成して、連携の円滑な展開を可能にすることであり、「理念の共有」は学校と博物館が地域の課題を認識し、連携の意義と目的を共有することである³⁾。

今後の博学連携が大いに期待されることは疑うべくもないが、現状では学校教育と博物館教育がどのような補完関係にあるのかも重要な視点であると思われる。本稿では特に、博物館の教育事業でも長い蓄積のある親子参加型の夏休み講座に注目した。その理由として、各地の博物館で夏休み期間を利用した小学生対象の講座が見られること、学期中の見学や講座参加とは異なり、夏休みは授業期間計画の範囲外になることに加えて、博物館主体の教育事業であるため、学校教育の教育課程運営からは自由となることから、博学の相互補完的な教育の事例となると考えたからである。が、そこにどのような意義があるのかについて報告したい。

1. 西宮市立郷土資料館のイベント「夏休みはにしはくであそぼう」について

1-1. 「夏休みはにしはくであそぼう」の概要

西宮市立郷土資料館では、2025年7月15日～8月31日までの期間に、次のような事業を実施された⁴⁾。以下その概要を示す。

(1) 展示室たんけん

日時：7月15日～8月31日の開館日（月曜休館）

対象：制限なし

内容：展示室内のワークシートを集め、8枚集まると冊子が完成させられる。展示室内で市のキャラクター「みやたん」を探し、その居場所を正解すると景品がもらえる。また博物館資料を手にとることができる「きょうのハンズオン」を14:30～15:30で開催。

(2) にしはく夏まつり

日時：7月26日、27日

対象：制限なし

内容：自由参加ブースと予約参加ブースに分かれて展開。予約は当日先着順としている。

自由参加ブース

- ①唐箕で仕分け対決！－米ともみがらをわけてみよう－
- ②くずし字書けるかな
- ③絵図パズルタイムトライアル
- ④米作りトランプでババ抜き対決
- ⑤みんなでくみたて！井戸づくり
- ⑥樽廻船すごろくゲーム
- ⑦藩札をつくる
- ⑧展示室たんけん

予約参加ブース※当日予約（先着順） 実施時間※各回1時間制

①土器づくり（各回定員6名）

26日（土曜） 10:30～11:30 12:00～13:00

27日（日曜） 13:30～14:30 15:00～16:00

②和綴じメモ帳づくり（各回定員6名）

26日（土曜） 13:30～14:30 15:00～16:00

27日（日曜） 10:30～11:30 12:00～13:00

③ヒミツのにしはくバックヤードツアー（各回定員5名）

26日（土曜） 10:30～11:30 12:00～13:00

27日（日曜） 13:30～14:30 15:00～16:00

(3) 郷土資料館サマースクール

西宮の歴史や文化を学ぶことを目的に、夏休みの自由研究にも対応した3つのワークショップを実施。

①江戸時代の海を航海しよう－和磁石のしくみを学ぶ－

日時：2025年8月14日（木曜）13時30分～15時

対象：小学5・6年生とその保護者（2人1組での参加）

②鳥瞰図でタイムトラベルーオリジナルカードで昔の西宮市を知るー

日時：2025年8月17日（日曜）13時30分～15時

対象：小学5・6年生とその保護者（2人1組での参加）

③夙川周辺の宝物さがしー歴史マップをつくるー

日時：2025年8月23日（土曜）13時30分～15時

対象：小学5・6年生とその保護者（2人1組での参加）

1-2. イベント「夏休みはにしはくであそぼう」の内容

ここでは、「夏休みはにしはくであそぼう」の内容を簡潔に示す。

(1) 展示室たんけんは、夏休み期間を使って、展示室に工夫を凝らした事業である。個人的に意義深いと考えるのは「今日のハンズオン」で、博物館資料の活用と教育効果の面で積極的な取り組みである。筆者が見学した日にも、生活用具の「ハンズオン」、つまり資料に触ることができる機会が設けられていた。博物館には資料を保存するという使命もあるため、来館者に自由に触らせるという企画を行うのは慎重さと覚悟が必要である。言うまでもなく、資料を活用すればほど破壊は進むからである。しかし、実物資料のみが持つ情報があり、それが研究にとっても学習にとっても重要であることも事実である。「ハンズオン」という企画は、資料としての貴重さを伝えるとともに、手に触れることによって初めて分かる質感、重量、実感的なサイズなどを体験者が直感的に学ぶ貴重な機会を提供しようという試みであった。

(2) 「にしはく夏まつり」は2日間の内容が古代～近世、民俗にまたがっており、館全体でのイベントであることがよくわかる。およそ歴史系の博物館において、地域の歴史学習に必要な分野を組み込んだ企画となっていた。

(3) 郷土資料館サマースクールは、館内でのワークショップを中心とした講座である①「江戸時代の海を航海しようー和磁石のしくみを学ぶー」は和磁石の仕組みを学び、実際に同じ構造の磁石を作るという内容で、②「鳥瞰図でタイムトラベルーオリジナルカードで昔の西宮市を知るー」は「西宮市鳥瞰図」に描かれた名所や建物を観察して、気に入った場所や建物を紹介するオリジナルカードを作成するという内容、③「夙川周辺の宝物さがしー歴史マップをつくるー」は夙川周辺の橋梁などをめぐるフィールドワークを行い、オリジナルの「歴史マップ」を作るという内容となっていた。

(1)～(3)のイベントを夏休みの1か月半の間に行うには相当の業務量が必要で、これだけのイベントを実施するのは簡単なことではないことは想像に難くない。同館の活動が非常に意欲的で、博物館教育に対して熱意を持った学芸員が揃っていることが伺える。

2. 西宮市立郷土資料館の活動への見学調査

2-1. 「展示室たんけん」の見学調査

今回、西宮市立郷土資料館にお願いし、前項で示した(1)と(3)を見学させていただいた。まず「展示室たんけん」について、見学調査の結果を報告する。

「展示室たんけん」は、常設展示室に①～⑧のシートを置き、シート内のクイズに解答を書き込んで事務室に持っていくと景品がもらえるというゲーム感覚を取り入れた展示学習である。ワークシートはA5サイズで、展示のトピックを軸に作られている。常設展示そのものは通史展示を意識した内容であるが、市の歴史を展示で網羅することは困難なため、比較的自由な導線に関心のある展示を見学できるようになっている。時代の流れを意識させるよりも、市の歴史のトピックを中心に学習させようという意図からワークシートが作成されたのであろう。「江戸時代の海を公開しよう－和磁石のしくみを学ぶ－」の講座に関係する樽廻船の模型展示と酒造りについて展示もあり、ワークシートでも取り上げられていた。また農具の展示も目を引き、ワークシートでも詳しく解説があった。

2-2. サマースクール「江戸時代の海を公開しよう－和磁石のしくみを学ぶ－」について

サマースクール「江戸時代の海を公開しよう－和磁石のしくみを学ぶ－」（以後「和磁石」講座と略す）は、大きく分けて3つの段階で構成されていた。第一に研修室での講義、第二に展示室での資料を通じた学習、第三に和磁石の制作であった。この講座の目的は、和磁石を自身で作ってみて、その機能を体験的に理解するという点にあるため、第一と第二の段階は、第三の段階に進むための準備学習になっていた。

研修室での講義内容は、西宮の酒造りと江戸への出荷、それに用いられた樽廻船の活動や和船の造船技術についてのものであった。学問的な内容であるため、担当の学芸員は小学生向けに言葉を選びながらの説明となっていた。担当学芸員と少し話す機会があったため伺ったところ、学校の授業で江戸時代について学んでいないため、「江戸時代」という言葉を使わないようにしたというお話であった。

研修室での学習により樽廻船の内容を伝えた上で、講師は受講者とともに展示室での解説に移った。座学はどうしても単調になるので、展示室に移動するという行動を入れるのは受講生にとっても良い効果をもたらしていたと思われる。また常設展示室には樽廻船の模型があり、断面から内部構造がわかるようになっていた。



写真1 展示室内での解説の様子

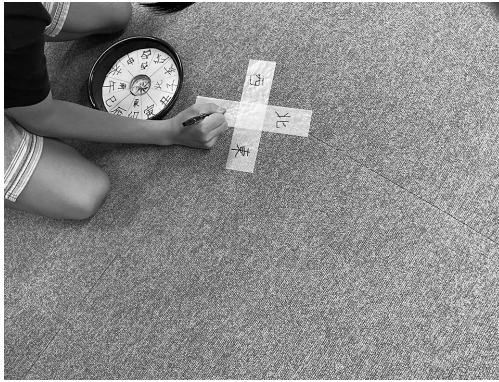


写真2 完成した和磁石で逆針の機能を確認

学芸員をモデルにした人物模型が置かれ、樽廻船模型との大きさ比較ができるようになっており、見学にも工夫が凝らされていた点に講師の学芸員の細やかな努力が見受けられた。

博物館は資料が中心であるため、博物館教育では博物館資料、展示している資料を有効に使う学習を促すことが必要であるし、その点が強みでもある。もし専用の企画展示室があれば、企画展示に合わせた講座を組めるだろうし、展示解説よりも生徒たちが展示を見て自ら発見で

きるような仕掛け、例えば関係する内容のクイズや人物模型の縮尺を見ながら船のサイズを計算してみる、酒樽の模型を船の模型に積んでみるなど体験的に展示に参加する時間を作っても良い企画になったと思われる。同館に企画展示室がないことは残念である。なぜなら常設展示室で見学する他の見学者のことも考えると、講座に合わせた見学とはいえ常設展示室内であり自由な活動はできないと思われるからである。

和磁石の制作は、方位目盛板を自作するもので、磁石そのものは市販のコンパスを使う。厚紙にケースに合わせた円を描き、マジックで十二支を円形に書き込んでいく。その後厚紙を切り抜き、ケースにはめ込んで完成である。

重要なのは、右回りに十二支を描く板と左回りに描く板の2種類を制作することである。前者を本針といい後者を逆針というが、本針は方位を知るためのもので、逆針は「子」が船の舳先、つまり進行方向に合わせて設置することで進路を見定めることに使う。2種類の方位目盛版を使うことで、江戸時代の航海法を実感できるということなのである。受講者には、和船の平面図が配られ、舳先に合わせて和磁石を置いてみるという実験を各自で行ってもらっていた。

3. 博物館教育と小学校教育の接点

西宮郷土資料館の「江戸時代の海を航海しよう－和磁石のしくみを学ぶ－」は、筆者にとっては非常に興味深いものであった。筆者自身が海事博物館に勤めた経験があり、航海技術や航路の開拓の歴史に関心があることに加え、小学生を対象に帆船の進み方などの体験講座を経験していたからである。

博学連携という観点で考えた場合、受講対象となった小学校5年生と6年生の社会科学習との関連がまず重要である。その点を整理すると、小学校6年生の社会科の授業では、夏休み前までに江戸時代の学習には到達しない。つまりこの講座に参加している小学生は、そのほとんどが江戸時代についての知識がなく、それ故に本講座担当学芸員は「江戸時代」という言葉を使わないようにして、〇〇年前という表現を慎重に選んでいた。それでも江戸時代をテーマにした講座を

企画した背景には、ただ学校の授業に合わせることを重視すると、郷土資料館で実施できる歴史講座は古代史の範囲だけになってしまい、講座の継続に支障が出るという事情がある。

博学連携の事業に関連して、学習指導要領では、「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深める」ことを目標の1つに挙げ、近世に関しては「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かる」「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かる」といった学習内容が示されている⁵⁾。東京書籍の令和7年度『新編 新しい社会 歴史編』⁶⁾では、江戸幕府と政治の安定、町人の文化と新しい学問という2章にまとめられ、含まれている内容は江戸幕府の成立と幕藩体制、身分制度とキリスト教禁制、近世の外交関係、町人文化、国学と蘭学である。この内容を教科書の25ページで教えるのは、教員側もかなり難しく負担も大きいと思われる。そのため、江戸時代の流れを理解するというより、江戸時代をトピックで理解するような構成になっている。また、教科書の内容は、学習指導要領の第6学年の学習内容に合致したものになっているため、小学校の授業で江戸時代の海上交通についてはほとんど扱わないことになるし、まして航海技術の学習などは、取り上げられることはほぼないと思われる。

なお学習指導要領では、第3学年と第4学年の学習において「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できる」ことが学習目標の1つに挙げられ、「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」ために「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」が学習内容として示されている⁷⁾。そこでの暮らしの道具や暮らしの内容、地域の文化財や年中行事、地域の発展に尽力した先人の業績といった学習内容は、それ自体歴史の学習になる。それも近世～近代の歴史の学習に含まれるので、小学校第3年学年から第6学年かけて、第3学年は「地域」という横軸で、第6学年は歴史の時系列という縦軸で学んでいくことになっている。

西宮市郷土資料館でも小学校向け学習プログラムにおいて、第3学年を対象にした「見る・触れる『昔のくらしの道具』」として、洗濯、食事、暖房に関する近代資料を使った教育プログラムを提供している。このプログラムでは、「昔」という漠然とした時間の示し方ではあるが、歴史と文化を意識させる取り組みを学校教育と連動するように意識して実施されている⁸⁾。

これらを踏まえた上で、郷土資料館サマースクールの「和磁石」講座が小学校第3学年を中心に、第4学年も含めた学習の延長上にある内容だと考えると、酒造業と港湾の発展という地域性の学習と捉えることができる。確かに江戸時代がいつ頃かよくわかっていない第5学年生、第6学年生もいただろうが、児童の歴史知識は最初から一様ではなく、歴史の学習マンガを読ん

る生徒、アニメやゲームで断片的な歴史知識がある生徒、小学校5年生の国語で学んだ古典作品に興味を持ち、図書室で紫式部や清少納言の伝記を読んだ生徒もいるかもしれない。つまり知識に差があることを前提に講座を開始するので、重要なことは受講生がその場で知識を共有することである。そのように考えると、江戸時代の航海をテーマにしたこの講座が、歴史学習としての目的を十分に達成したと言える。

4. 西宮市立郷土資料館の展示と講座—むすびにかえて—

最後に、展示と講座の連動について考察した内容を述べたい。見学を通して、「和磁石」講座と同時期に行われていた「展示室たんけん」の中で、常設展示資料から江戸時代を「発見」してもらう時間をどれだけ取ることができるかを考えさせられた。親子で「展示室で江戸時代の西宮をたんけん」する時間や、受講者同士で「たんけん」成果を見せ合うといった方法も考えられたであろう。実は同様の構想はあったようで、展示してある酒樽に触れ、その大きさや重さを実感するという体験ができないかを検討したとのことであった。実施できれば、樽廻船と積荷と航海が結びつくような体験となったと考えられる。おそらく、資料保存や参加者の安全、公平な体験に要する時間と講座運営のスケジュール、他の見学者への配慮などから断念したのではないかと推察された。西宮市立郷土資料館の展示室には、酒造りや樽廻船の模型はもちろん、生瀬宿の模型や名塩の紙漉き、江戸時代から続く「京屋治兵衛」の銘がある唐箕など展示から受講者自身が江戸時代を知る機会になる資料は数多く展示されていたので、学芸員としてはこれを活用したいと考えたことは想像に難くない⁹⁾。専門的な説明を駆使するより、小学生が小学生の目線で資料から知識を得る方法が望ましいと考えても、実現することができない企画もあるということである。

資料（モノ）は、それ自体が非常に魅力的である。例えば、和磁石についてもそれは言える。「和磁石」講座を受講した小学生は、なぜ本針と逆針という2種類の磁石があるのか、方位はなぜ十二支で書かれているのか、航海でどのように使ったのかが体験的に学べたはずであるし、好奇心も広がったことだろう。事実、講座終了後に西洋の航海技術との違いを質問する受講者、実物の和磁石をじっくり観察している受講者がいたことが印象的だった。受講者の学習の成果が、新学期の教室で披露され、クラスで共有されたなら、それも博学連携の成果ではないだろうか。学校も博物館もマンパワーが不足がちで、時間的にも余裕がないのが現実である。組織的な博学連携を進めていくことはもちろん必要だが、長い蓄積がある夏休みの博物館講座を再評価し、その事業内容を分析・検証することで、有効な教育効果が得られるのではないかと考えられる。

註

- 1) 駒見和夫・梅原麻梨紗「和洋女子大学文化資料館におけるアウトリーチの実践と検討—小学校に向けた出前講座—」和洋女子大学博物館学研究室 2021 PP11～18

- 2) 国立歴史民俗博物館「歴博の展示や資料を活用した授業実践例」
https://www.rekihaku.ac.jp/learning/for_teacher/practice (2025年7月30日閲覧)
甲斐麻純・松岡 守「博物館と学校教育の連携の現状と今後の展望」三重大学教育学部研究紀要 第64巻 教育科学 三重大学 2013 PP209～216
- 3) 小川義和「博学連携は何のために」『生物教育』第60巻第3号 2019 PP156～160
- 4) 西宮市立郷土資料館「イベント 夏休みはにしはくであそぼう」
<https://www.nishi.or.jp/bunka/rekishitobunkazai/ritsukyodoshiryokan/kyodo-event/nishihaku-natsu2025.html>
(2025年9月2日閲覧)
- 5) 文部科学省「小学校学習指導要領 社会科」(2025年9月2日閲覧)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/
- 6) 澤井陽介他『令和7年度新編 新しい社会 歴史編』東京書籍 2024年1月1日
- 7) 前掲(5)文部科学省「小学校学習指導要領 社会科」URLによる。
- 8) 西宮市立郷土資料館「小学校向け学習プログラムのご案内」
<https://www.nishi.or.jp/bunka/rekishitobunkazai/ritsukyodoshiryokan/kyodo-dantai/gakusyuprogram.html>
(2025年9月2日閲覧)
- 9) 西宮市立郷土資料館の展示資料については、筆者自身の展示見学に加え、『西宮市立郷土資料館図録』(西宮市立郷土資料館 昭和60年)を参考にした。

謝辞

本稿作成に当たり、「江戸時代の海を航海しよう－和磁石のしくみを学ぶ－」を担当された西宮市立郷土資料館学芸員中谷真悠香氏と早栗佐知子氏には多大なご協力をたまわった。

中谷氏は講座担当のお忙しい中、筆者の質問にお答えいただき、早栗氏は展示や館の活動・行事についてご教示くださった。記して感謝したい。

[あかい たかし 日本史学・博物館学]